

特別インタビュー

インフルエンザの予防と対処

かたおか小児科クリニック院長 片岡正

プロフィール

1951年生まれ。信州大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院、東京都立府中病院、日本赤十字社医療センターなどを経て1996年、かたおか小児科クリニックを開業。専門は循環器病だが、さまざまな患者さんと接してきたため、自稱「子どもの何でも屋」。開業してから予防接種、健診などに目覚め、今は健診で赤ちゃんの健康な発育を見ていくことも楽しみの一つになっている。

風邪やインフルエンザが心配な季節です。とりわけインフルエンザは症状が重く、乳幼児や妊婦さんへの感染が気がかりです。抗ウイルス薬の登場で医療現場が変化したともいわれる中、予防法や対処法をどう考えればいいのでしょうか。かたおか小児科クリニック（川崎市高津区）院長の片岡正先生に最新情報を伺いました。



◆ 乳幼児のインフルエンザは危険？

—インフルエンザと風邪は、どう違うのですか？

片岡 ウイルスの種類が違います。インフルエンザウイルスによって気道に炎症が広がる感染症がインフルエンザですが、感染力が大変強くて症状が重い。高熱が出ていったん下がってから再び上がるという二峰性の発熱、関節や筋肉の痛み、それから肺炎や気管支炎、中耳炎など合併症を起こしやすいという特徴があります。以前は、あとで血液検査をしなければ風邪と区別できず、こうした症状から推測するしかありませんでした。しかし10年ほど前に、ウイルスが増殖する鼻の奥の粘液を採取して検査すると10~20分ほどでインフルエンザかどうか診断できる検査キットができて、医療現場が大きく変化しました。

—インフルエンザは乳幼児がかかると

重症化しますか？

片岡 もっとも重症化して危険なのは高齢者です。乳幼児は高齢者より安全ですが、健康な成人に比べると少しリスクが高い。それでアメリカでは最近、乳幼児がワクチン接種の勧奨対象になりました。

—赤ちゃんがインフルエンザにかかると、「さあ大変」だと感じますね。

片岡 実際にはそんなことはないんです。ただ、ごくまれに脳炎や脳症を発症することがあり、それがマスコミで大きく報道されたため、「インフルエンザです」と言うとき泣き崩れてしまう親御さんが増えました(笑)。「インフルエンザは怖い病気だ。しかし、迅速に診断して特效薬の抗ウイルス剤を飲めば治る。だから早期発見・早期治療だ」と宣伝され、それが保護者の常識になりました。

しかし、インフルエンザは抗ウイルス剤がない時代から毎年流行を繰り返し、それでも人類は絶えることなく生き延びてきた。だから、そんなに大騒ぎをしなくてもだいじょうぶです(笑)。

◆ 抗ウイルス薬の効果と注意点

—でも、早く診断して早く薬を飲めば重症化するリスクを少なくできるのでは？

片岡 「48時間以内に薬を飲まなければ脳炎や脳症になって大変なことにな

る」という意味なら、それは誤解です。そうした報道のためか、わが国では、インフルエンザと診断されたほぼ全例に抗ウイルス剤のタミフルが使われて、世界で生産された約60%を消費しました。われわれ医者も反省すべきですが、特效薬として多用されて生産が追いつかなくなり、パニックが起こるといふ悪循環を引き起こしてしまいました。

—早い時期に抗ウイルス剤を服用すると、脳炎や脳症が防げるというのはほんとうですか？

片岡 最初はそういう期待がありました。が、そうでもないことがわかってきました。早い時期に抗ウイルス剤を飲んでも脳炎や脳症になることもあります。「効果がない」と結論づけられたわけではないが「効果がある」という結論も出ていない、というのが現状です。

—抗ウイルス剤が必要ない場合もありますか？

片岡 ほとんどの場合、必要ありません。シンメトレルが認可されるまでは、インフルエンザに効く薬はなく、抗生物質を処方して合併症を予防していただけ。タミフルの効果として確実にわかっているのは熱が早く下がることですが、実は効かない人もいます。タミフルが登場して数年経った現在、統計的に、「熱が下がるのが1日早まるが気管支炎などの合併症を防ぐ確率は飲まない人との間に差がない」との結果が出ています。

ICREO 赤ちゃんとともにアイクレオ
http://www.icreo.co.jp



母乳の栄養バランスはそのままに、全乳のたんぱく質をペプチド(低分子)にした赤ちゃんにやさしいミルクです。

赤ちゃんにやさしいペプチドバランスミルク

アイクレオHI

0カ月から ※ミルクアレルギー疾患用ではありません。

アイクレオ 株式会社 東京都中央区日本橋小伝馬町10-11 日本橋府川ビル

お母さんと赤ちゃんの健康をサポートします

吉永企業グループ 代表 吉永英人

〒755-0067 山口県宇部市小串336-1
電話0836-83-4376 FAX0836-83-4378

企業グループ医療サービス部門

西日本医療サービス(株)(山陽小野田) 愛媛基準寝具(株)(松山)
九州医療サービス(株)(福岡) 四国医療サービス(株)(松山・高知)
西日本商事(株)(松山) 日本医療産業(株)(大阪・東京)